

# 大学創立30周年を迎えて

学長 横井 弘美



本学が、学校法人名古屋学院を母体として、一九六四年名古屋市東区大幸町に開設されてから三〇年が経過しました。その間、他大学が経験しなかつたような苦澁の歴史をきざんでいますので、卒業生の皆さんはそれぞれに想い出があると思います。またこの数年間は、外国語学部を増設し、経済学部から商学部を独立させ、三学部四学科一留学生別科の中規模大学になりましたから、皆さんはそれなりに母校への期待をふくらませていると思います。卒業生総数は今春二一、五五〇名にもなりました。本学にとって、とても大切な、そして大きな力です。

現在全国の大学は変わりつつあると言っているでしょう。耳にされたことがあるでしょうが、大学の設置基準の大綱化と自己点検・評価の規定化に伴って、一九七〇年前後のあの大学紛争でも変らな

かつた大学がダイナミックに内実を整えようとしています。もちろん背景に一八歳人口の急減があるでしょう。六、七七年には大学への進学希望者数と国公私立大学の収容定員数がほぼ同数の七〇万人になりますから、大学を選ばなければ進学希望者はどこかの大学に必ず入学できることとなります。当然進学希望に片寄りがありますから、定員数を確保できない大学が、〇校のうち三校くらいは出るだろうと予測されています。本学がこの三校のうちに入るようではいけません。そのためには時代のニーズからの評価に耐えうる、また学生のニーズに対応した内実をもった大学づくりを、理事会、教員、職員が自主的に、他律的ではなく自律的に、自己責任において行っていくなければなりません。

同窓の皆さんには、私ども役員・教職員のこのような内部努力をサポートしていただきたいと思っています。内外の歴史を刻んだ大学の事例からみますと、例えば教育・研究の充実のための基金づくりとか同窓会支部主催による父母懇談会の開催とかいろいろありますが、ともかく母校愛に根ざした皆さんのボランティア的奉仕を大いにご期待申し上げます。

# 新会長あいさつ

同窓会会長 占部 憲一



今年は何年にもなく猛暑と水不足が続いたりしてたいへんな年でしたが、同窓生の皆様にはお元気で活躍のことと拝察いたします。平素は同窓会の運営に多大な配慮を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、役員任期満了による改選に当たり新しく執行部が船出しました。加藤前会長始め、前執行部の皆さんのご努力を心より感謝いたします。微力ではありますが、同窓会ならびに母校の発展のために力を注ぐ所存でございますので、よろしくお願いたします。

母校名古屋学院大学は、今年創立三〇周年を迎えることができました。三学部（経済学部・商学部・外国語学部）、一留学生別科で、優良中堅規模の私立大学として成長をつづけているとうかがっております。大学院設立も構想されており、

ますます期待されているところです。この紙面をお借りして、学長はじめ教職員・役員の方々に御礼申し上げます。

三〇年を節目として、新たな気持ちで、大学および同窓会が一体となり、さらなる飛躍のため力を合わせて進まなければなりません。同窓会としては次の重点施策の推進のために力を注ぎたいと考えていますので、会員各位のご支援、ご協力をお願いいたします。

- 一、三〇周年記念事業への積極的参加
- 二、支部づくり
- 三、年会費納入の促進
- 四、名簿の作成
- 五、大学の募金活動への協力

特に募金活動につきましては、すでにお手元に大学側より趣意書が届けられていると思いますが、主旨をご理解の上、母校の教学内容のより一層の充実のため、同窓生二一、五五〇名が一丸となって協力しようではありませんか。

また、十月二二日には、大学と共催で交流会が催されます。ぜひご家族おそろいでご参加ください。

(71年経済学部卒)